

## 平成23年度実施（22年度採択）中央区協働提案事業評価結果報告

この報告は、中央区協働事業提案及び協働事業実施要綱第13条第2項に基づき、中央区協働推進会議から中央区長に報告するものである。

### 1 評価の対象とした事業

#### (1) からだところ、いのちについて考える出前授業

協働団体：特定非営利活動法人 からだところの発見塾  
区担当部局：教育委員会事務局指導室

#### (2) 自然・環境出前授業

協働団体：特定非営利活動法人 銀座ミツバチプロジェクト  
区担当部局：教育委員会事務局指導室

#### (3) 外国から編入学した児童・生徒の学習支援

協働団体：特定非営利活動法人 キッズドア  
区担当部局：教育委員会事務局指導室

### 2 評価結果

別紙「中央区協働提案事業評価結果報告書」のとおり

### 3 評価経過

3月29日 中央区協働推進会議による実施報告会  
4月5日 中央区協働推進会議による事業評価

### 4 評価方法

協働団体及び区担当部局から提出された実施報告書及び実施報告会を踏まえ、下記評価基準に基づき、全委員協議のうえ共通認識のもと評価した。

(評価基準)

#### (1) 事業の成果に関する評価

事業目的の達成度、事業実施における効率性・効果、受益者の満足度

#### (2) 協働の取り組みに関する評価

団体及び区の役割分担、相互理解・パートナーシップ

#### (3) 総合評価

事業継続の必要性

## 中央区協働提案事業評価結果報告書

事業名	からだところ、いのちについて考える出前授業	
実施団体	特定非営利活動法人 からだところの発見塾	
担当課	教育委員会事務局 指導室	
目的	<p>人体やところが精緻にしかも柔軟に作られていることを実感する場や、からだやところ、病や死を語る場の提供を通じて、自分のからだやところに関心を持ち、「自分」の存在の尊さを確認する。他人との違いを認めることで他人の痛みをも理解でき、大切に思える気持ちを育む。また、医療のしくみや病気について学ぶことで、医療情報への感度を高め、将来的に医療サービスの上手な受け手になれるようにする。</p>	
事業の概要	<p>区立小・中学校の総合学習や保健体育などのカリキュラムにおいて、からだやところ、いのちの大切さについて学ぶ場を提供するなど、心身や医療についての出前授業を行う。</p>	
実績	小学校5校、中学校1校 計6校	
評価	A: 高く評価できる B: 評価できる C: どちらかという評価できる D: あまり評価できない	
1 事業の成果に関する評価	推進会議評価	
事業の目的は達成できたか	A	
<p>高度な専門家が健康やいのちの大切さを伝えることから、具体的な知識・経験と手法が活かされている事業である。授業のテーマ・内容・講師選定等が工夫されており、学校側の評価も良好である。また、保護者の参加を得て懇談会を開催していることも双方向的な情報交換を意図しており高く評価できる。</p>		
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか	A	
<p>学校現場のニーズに対応し、学習指導要領にこだわらない自由なテーマ設定は、NPOならではの事業展開である。学校とNPOの連携により十分な効果が発揮できた実践として、協働の意義が確認された。教育委員会との連携によるニーズ調整によって授業の内容や適切な講師の派遣ができ、より効果的な授業が実施された。</p>		
受益者の満足度はどうであったか	A	
<p>子どもの理解力や発達段階に適合していたかという点でいくつかの論点は残るが、おおむね満足していたように思われる。保護者が参加する場面も評価できる。健康や障がいに対する新しい視点も盛り込まれており、子どもたちの理解の促進がなされ大きな財産になったと思われる。全体として児童・生徒のみならず保護者からも高い評価を得ており、受益者の満足度は高いといえる。</p>		

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価	
団体と区との役割分担はうまくできたか	A	
<p>担当課が調整、受託者が実施という役割分担を明確にし、相互に情報交換を行った成果が表れていると思われる。指導室が調整することによって学校側の事業内容への信頼感が形成され、円滑な運営につながったといえる。</p>		
協働の推進につながったか(相互理解・パートナーシップは深まったか)	A	
<p>専門的知識やスキルが学校現場にとって重要な経験を提供するということが認識されたことは、パートナーシップの深化として理解すべきである。児童生徒、教員、保護者、NPO、行政それぞれが得るものがあり、各々にとって協働の成果が上がったと認められる。</p>		
総合評価コメント		
<p>継続すべきである</p>	<p>一部修正を要するが継続すべきである</p>	<p>再検討を要する</p>
<p>からだところ、いのちについての健康教育を学習指導要領の領域を越えて発展的に展開していく点で、協働ならではの利点を発揮できた。医療や身体、心に関する専門家集団の持つ高度な内容を普遍化していくという点で一つのモデル的な活動を提示できたと判断される。また、子どもに限らず、教職員や保護者に与える影響も大きかったといえる。担当課との調整も順調であったと判断される。今後はさらに内容の多様化とより多くの学校での実践を期待したい。本年度も継続して実施されるべきであると判断する。</p>		

## 中央区協働提案事業評価結果報告書

事業名	自然・環境出前授業	
実施団体	特定非営利活動法人 銀座ミツバチプロジェクト	
担当課	教育委員会事務局 指導室	
目的	区内の幼稚園、小・中学生に銀座のミツバチや屋上農園を通して自然、環境、食育教育を専門の講師を派遣して実施し、都市と環境との共生や自然との大切さを“身近な体験”として子供たちに理解してもらう。	
事業の概要	区立幼稚園、小学校のカリキュラムにおいて、日頃、自然と親しむ機会が少ない都心の子どもたちに、ミツバチなどを活用した環境教育や食育教室などの出前授業を行う。	
実績	幼稚園7園、小学校4校 計11園・校	
評価	A: 高く評価できる B: 評価できる C: どちらかという評価できる D: あまり評価できない	
1 事業の成果に関する評価	推進会議評価	
事業の目的は達成できたか	A	
<p>身近なミツバチを題材にして、ミツバチの生態、役割を通じ、自然のメカニズムをわかりやすく伝えた点で環境教育としては高く評価できる。もともと知られた活動であるが、知名度を生かして環境教育としての特性を地域に還元できたという点で目的を達成できている。短期間で幼稚園7園・小学校4校という実績で、追加授業も行われるなど成果は大きいと判断できる。</p>		
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか	A	
<p>完成度、知名度が高いがゆえに、協働によらなくても展開できる力量をもっていたが、教育委員会および実施学校との連携により、学年別の内容や運営など円滑な事業実施ができた。実際に生きている蜂を学校に持ち込んで行うことは、学校単独の授業では困難であり、協働事業以外では実施が難しい。また、地域の中で飼育されていることも子どもたちにインパクトがあった。学習の進捗状況に合わせた資料の作成や実際にミツバチを使った授業を行うことは、効果的な展開のうえで大きな意味をもった。</p>		
受益者の満足度はどうであったか	A	
<p>実物による学習に対して子どもたちは素直に関心をもっていたうえに、普段の学校教育ではできない経験を得た点で満足度は高く、協働の意義が発揮されたといえる。ただ、全体としての満足度は高いものの、幼稚園の場合は十分に授業に集中できなかったと思える報告も見受けられたので、対象年齢ごとの実施内容を工夫することが求められる。本授業を通じ自然や環境に対する関心が高まっていることにより、その後の学校での授業展開に多くの示唆を与えるものとして満足度は高いと判断する。</p>		

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価	
団体と区との役割分担はうまくできたか	A	
<p>教育委員会の調整により学校と十分な連携がとれ、教育委員会が間に入って事前の打合せを重ね、スムーズに実施できた。内容的には教育内容論の立場から、教育委員会からも積極的な提案があってもよいかと思われたが、全体としては、役割分担を明確にすることで円滑な実施が図られているとともに、実施後に情報交換をすることにより、授業の質の向上が期待できる。</p>		
協働の推進につながったか(相互理解・パートナーシップは深まったか)	A	
<p>もともと知られた活動で協働実績もあるために、深まったというニュアンスではとらえにくい面もあるが、区内におけるNPOの活動を広く知ってもらえる良い機会となり、理解が深まり意義深い協働の推進につながったと思える。NPO側もスキルアップや新しい発見といった成果が認められた。</p>		
総合評価コメント		
<p>継続すべきである</p>	<p>一部修正を要するが継続すべきである</p>	<p>再検討を要する</p>
<p>本区における既存の活動として知られたミツバチプロジェクトの利点を生かした活動として評価できる。特に、本区のように自然環境が少ない地域において、自然の生態系と人間との関わりを体験的に学習できる機会として貴重であり、全国的な展開性も有しているといえる。実際の授業展開においては、幼稚園からの要請に対しては対象年齢との関係でやや課題を残しているとの意見もあった。また、1回あたりの授業の要する準備に手間がかかるため、ニーズへの対応と時期的な適切性との関係で調整に苦心する面も見られた。今後の協働においては、担当課の積極的な調整によって、ニーズへの対応の調整を図りながら、本区の特徴的な活動として、全国にアピールすることができる活動であると評価された。本年度も継続して実施されるべきであると判断する。</p>		

## 中央区協働提案事業評価結果報告書

事業名	外国から編入学した児童・生徒の学習支援事業	
実施団体	特定非営利活動法人 キッズドア	
担当課	教育委員会事務局 指導室	
目的	外国から編入学した児童・生徒に対して、学習が遅れている(苦手としている)科目を中心に学校授業の補習を行うことによって、学力を引き上げるとともに、日本の学校教育(進学を含む)に適應できるようにする。	
事業の概要	外国から編入学した児童・生徒が通常の授業を理解しながら学習することが難しいケースが多いため、複数の大学生ボランティアによる個別指導に近い方法で、学習支援(学校授業の補習)を行う。	
実績	全28回実施	
評価	A: 高く評価できる B: 評価できる C: どちらかという評価できる D: あまり評価できない	
1 事業の成果に関する評価	推進会議評価	
事業の目的は達成できたか	B	
<p>東日本大震災により児童・生徒が自国に帰国する等の影響もあり、参加者が当初の見込みより少なかった。参加した児童・生徒の日本語の語学力、学習進度など、個々の生徒の特性に合わせた出前事業を実施した点で目的は達成できたといえる。子どもたちが活動に参加することで、学校での生活にも良好な影響を与えることができたことは、当初の事業目的を越える効果を示しているといえる。</p>		
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか	A	
<p>必要性は高いが学校では対応が難しい分野であり、協働の意味は大きかったといえる。教育委員会との連携により対象児童の募集や実施前後の学校生活の状況など、学校との緊密な調整を図ることができたことは、単独で実施した場合に比べ効果的・効率的であったと考えられる。ただし、開催場所の柔軟性については、団体の力量からみても担当課にもう少し工夫の余地があった。</p>		
受益者の満足度はどうであったか	B	
<p>参加した子どもだけでなく、保護者からも高い評価を得ており、学校の違う各参加者間で交流できたなどの効果もあり満足度は高いものと思われる。ただし、低学年における保護者の送迎の負担と開催場所の複数化についての課題は残った。しかしながら、参加した子どもは学生ボランティアとの信頼関係を築き、意欲をもって本事業に参加していたため、受益者の満足度は高いと判断する。</p>		

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価
団体と区との役割分担はうまくできたか	A
<p>教育委員会の調整により、学校との連携がよくとれたことが、学生ボランティアの確保や授業の実施場所(教育センター)の安定的な確保など、効果的な事業実施につながったといえる。</p>	
協働の推進につながったか(相互理解・パートナーシップは深まったか)	A
<p>こうした子どもたちへの対応は、個々の子どものニーズに継続的に寄り添いながら長期的に渡って支援していくことが重要であり、事業実施内容については、学校の担任教師からも評価され、一定のパートナーシップは築けたものと思われる。</p>	
総合評価コメント	
<p>継続すべきである</p>	<p>一部修正を要するが継続すべきである 再検討を要する</p>
<p>元来、協働関係を築くことが難しい公教育に関連する領域での協働の成果は貴重である。外国から編入した子女の学習支援という全国的にも課題となっているテーマについて意欲的に取り組んだ活動であり、協働ならではの効果が挙げられていると判断する。事業の今後を考える場合、学力向上、生活文化習慣の獲得、人間関係づくりの3つの側面が考えられるが、学習支援にとどまらず、習慣獲得や人間関係の側面でも対応が期待される声があった。また、拠点の複数化の課題や年少者の送迎に関する配慮など、区の担当課が主体となって改善を図るべき点も指摘された。これらの点を考量しつつ、今後もさらに活発に展開すべき内容として評価したい。本年度も継続して実施されるべきであると判断する。</p>	